

ウクライナ避難者支援

のための情報共有会議

— 第3回議事メモ

日時：2022年8月9日（火）18：30～20：30

開催方法：オンラインzoom

参加者：57名

* 団体、個人名については敬称略にて掲載しております。

挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

すでに各地域で様々な支援が実施されています。それぞれが大切な取り組みです。

そのうえで、

- ・ 官民が持てる情報を共有しましょう。
- ・ 互いの過不足を補い合いましょう。
- ・ 共に連携・協力し合い、より有益な支援につなげていきましょう。

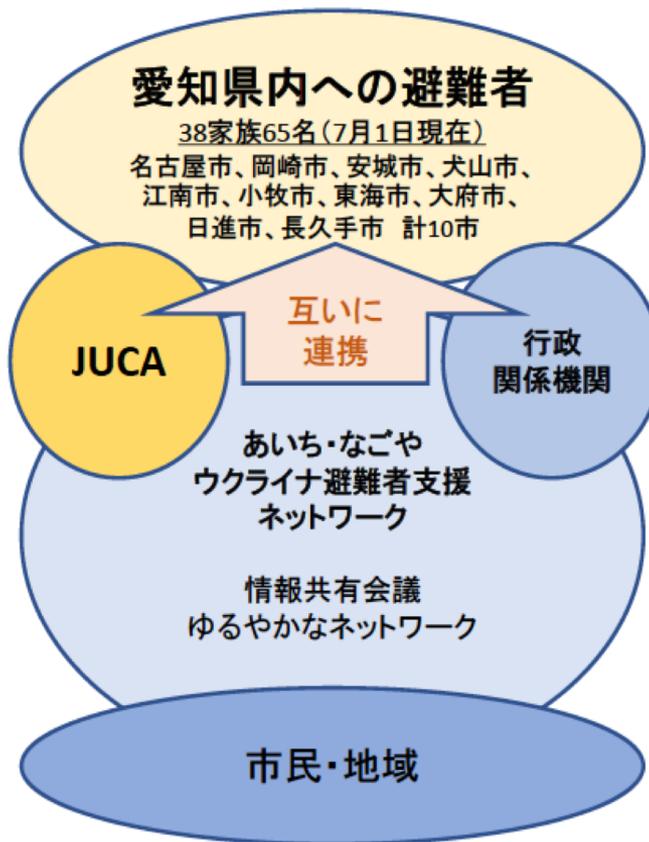
「暮らし」とは、

衣食住・モノ・お金・仕事・教育・医療保健
福祉・心のケア・コミュニティ・言語・・・
緊急的、そして中長期的な視点が必要

「みんなの願い」は、

避難者「一人ひとり」のいのち・暮らしが守られること

行政・JUCA・支援団体等による支援
地域を基盤とする支援



挨拶、会議の趣旨、開催経緯

あいち・なごやウクライナ支援ネットワーク／認定NPO法人レスキューストックヤード 代表理事 栗田暢之

<これまでの情報共有会議で確認したこと>

- 提供型支援より、必要なときに地域や就職先などその場その場で相談に乗れること。緩やかにつながり、ニーズに応じた支援ということを共通の着地点にしたい。それぞれの支援の強化のためのこのネットワークを活用していただきたい。
- 行政、専門職、民間、個人・・・できること・できないことが違う。できないことはカバーし合い、横の連携を広げることによって、避難者一人のために力を合わせる事が大事。
- 物の支援だけではなく、就業、教育、コミュニティ。言語の問題など中長期的な支援が必要。

<今後に向けて>

- 67人、40世帯が愛知に避難している。さらに本日は、岐阜や三重の方にも参加してもらっている。行政枠を超えて、情報交換や支援を広げていきたい。市民・地域の支えによるバググランドのもと、JUCAや行政と連携して、支援を届けたい。

JUCA (NPO法人日本ウクライナ文化協会)

理事長 川口リュドミラさん

<取組>

- ・8月7日日本語クラス閉校式
毎週のイベント、夏祭りの予定もある。
- ・8月21日にはチャリティイベント@可児市
- ・来日している人の支援も必要だが、避難できない国内にいる人たちへの支援が必要。
- ・ウクライナへの支援が継続されていることに感謝している。
- ・ウクライナ本国への支援金も集めている。
ザポロージャ州、ハルキウ市などへ計80万円を送金する予定。今後も支援したいと考えているので、寄付金もいただくと有難い。

<課題>

- ・次の日本語クラスは9月開始予定。現時点で10人以上の申し込みがある。
- ・初期コースを終えていない人の申し込みもあるが学習意欲がある人は受講できるようにしたい。仕事をしながら学びたい人もいる。
- ・日本語学習と就労の機会
- ・イベント疲れ、暑さ疲れが見られる。毎週イベントがあるが、ゆっくり過ごしたいのではないか。
- ・クーラーや扇風機など家具が足りない人もいる。
- ・国外に避難できないウクライナ国内にいる人たちへの支援が必要。

あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク

認定NPO法人レスキューストックヤード 事務局 浜田、加藤

<取組>

- ・ネットワークでつながりのある企業からの物資支援が続いている（ご自宅へのお届けも行う）
 - ・就労支援など個別支援、支援物資のご自宅へのお届け
 - ・寄付をいただいたため、個別ニーズに応じて物資調達し、支援した。
 - ・名古屋市避難民支援登録窓口
- 個人：累計38件（うちマッチング8件増）
企業：累計113件（うちマッチング6件増）
- ・8/5JUCA主催日本語教室第1期が終了するので、それまでに日本語教室参加者に物資が届けられるように、支援協力依頼をした。
 - ・日本食が気に入っていただいているようで、米ニーズがあり、企業とマッチングし配布。他にも、ニーズリスト（日焼け止め等）をお伝えして持ってきて頂いた。
 - ・イベント時の昼食提供（登録企業に依頼して急遽対応いただいた）
 - ・夏休み中の日本語教室時の託児
 - ・引っ越し、家具希望者への配送（企業や個人で登録いただいている運搬ボランティアとのマッチング）。
- * 短期間での依頼にも拘わらず、協力してもらい感謝

<課題>

- ・日本の生活に慣れていない方が多いので、実際に物を見てから欲しいとなり、必要数の把握が難しい。
- ・「マスク着用」への違和感。
- ・日本語教室などで頻りに事務所に来る方は、早めに物資を手に入れられる状況。情報へのアクセスが遠い方にどう届けるか。
- ・支援登録件数落ち着き。
- ・物資から生活支援への切り替わりのタイミング
- ・支援登録してくださった方へのフィードバック

<取組>

- ・生活一時金の支給（1世帯20万円）。すでに8割の方へ支給済。順次申請を促している。
- ・日本語学習支援のためのタブレットは市町村へ発送済。避難民のお手元に届くようにとしている。
- ・プリペイド式SIMカードも市町村へ発送済み。
- ・オンライン日本語学習は、8月16日のつどいの場で案内予定。来月から4ヶ月の期間開催（15回）詳細はつどいの場、市町村へ案内予定
- ・寄付物品を配送することを予定している（委託業者と契約済み）
- ・今後、WEBサイトに前広に情報を掲載していく予定。

名古屋市

国際交流課 西川さん

<これまでの取組>

- ・現在、名古屋市内に33名在住。転出入、帰国、新たに
来られたといった方もいらっしゃる。
- ・つどいの場開催、現金給付等してきたが、国からの財政
支援もあり、今後は個別支援をしていこうとしている。8
月からふるさと納税も財源としつつ、JUCAやRSYと協力
しながら、個別相談をしていきたい（行政付き添い、通訳
同行など）
- ・個別相談をするにあたり、全員を把握できていない状態
なので、全員に手紙とアンケートの配布をする。（県の支
援金やタブレットの話もいれて、きちんと情報が伝わるよ
うに）
- ・避難民の方からきている申請書を見ると、○をつける欄
に○をつけていない。□に をするのがウクライナの文化。
書きやすい様式で作ってきたい。

<今後の取組>

- ・報道に取り上げてもらうような企画を作っていく必要がある。
- ・8/27午前中（ウクライナ独立記念日近く）に、ウクライナの
方と市民の交流会を企画中。支援者に向けてウクライナのダン
ス等を紹介する企画。

安城市内での受け入れ状況

●安城市役所 市民生活部地域振興係 大竹さん

- ・安城市には、安城市在住の方を身元引受人として、ウクライナより避難されている方がいらっしゃる。
- ・市としては身元引受人の方を通じた情報提供を行うとともに、「特定活動」の在留資格を取得後、住民登録をしていただき、現在お住いの方々と同様の住民サービスの提供に努めている。

●NPO法人多文化共生サポートAdagio 高木さん

- ・小学校の初期指導教室で日本語指導に関わっている。もともと多国籍な小学校のため、スムーズに受け入れができた。
- ・タブレット学習が始まったこともあって、和気あいあいとコミュニケーションをとっている様子だが、タブレットでコミュニケーションに慣れていないので、子どもたちがどう思っているのか気になるところ。
- ・いままで受け入れてきた子どもたちの言語とは違うので、細かいところがコミュニケーションが取れていない印象。
- ・今まで多かった国籍の子どもだと、子どもたちが通訳になっていたことが多くあったが、今回はそれができていない。
- ・日本の学校が怖いという印象を持っているようで、クラスに入れられない子もいる。
- ・夏休みでほっとした後で、9月の夏休み明けを心配している。

●あんじょうまざりん 本多さん

外国にルーツを持つ子どもの支援をしている団体。現状、ウクライナの子どものサポートをしていないが、同じく安城市で身元引受人をしている方から話を聞いた。行政支援より市民発信型の支援が盛ん。多文化子育てサロンをするので、そうしたところにも参加してもらったらどうかと思っている。

個人での受け入れについて経験共有

高橋想子さん

1. 来日前 受け入れ準備

- SNSでロシア侵攻以降に知り合った2組を受け入れ、さらに2家族来日予定（9～10月）以下、時系列で紹介。
- ・2月に退職、これまでの経験を社会に還元したいという思い→できることを
- ・4月15日に日本財団通達 渡航費・生活費・住環境整備費の支援があることを知る
- ・4月29日 SNSで来日希望者と知り合う
- ・4月30日 他国の支援と比較し、「社会保険・仕事・学校教育・住居」の支援は日本の支援体制が優れているとわかる
- ・5月3日 日本財団に書類提出、家具・家電募集開始（ジモティ、FBなど）・仕事探し
- ・5月9日 ワルシャワ日本大使館でビザの申請
- ・5月10日 引越し会社に協力要請、無償で提供
- ・5月12日 ビザが降りる
- ・6月7日 日本財団渡航費支援が決定
- ・6月12日 荷物搬送、13日来日・入居開始 テレビでは報道されない多くの地元の方などから支援があった

2. 来日後 避難者のマーケティング

- ・夫の仕事 安城商工会議所のメンバーへ売り込み 仕事探し→国保適用（免除）雇用
- ・妻の仕事 ネイルアート。チラシ作成・SNS改善。貴重な現金収入となっている。ウクライナ料理教室の開催、収益になる料金設定をしている。

3. 現在 支援対象を拡大するために

- ・ウクライナ国内に残る方への支援 逃げたくても逃げられない人たち 暖房設備がない中で迎える冬
- ・皆様へのメッセージ

◆高橋さんが行っているクラウドファンディングページ：<https://www.zenes.jp/projects/ukraine-doroshovka>

グループディスカッション後の全体共有

- ・至学館大学にて様々なスポーツサークル、部活動がある。避難者の方で体を動かしたい、スポーツが好きという方がいらしたらぜひ参加していただきたい。また、高校・大学に進学したいという方は授業料免除で引き受けるので相談してほしい。
- ・支援の網から漏れてしまう人たちへどう支援を届けるか意見交換した。
- ・和太鼓のイベントに避難者を招待したNPO。支援マッチング数が減るなどの話があったが、広報活動は周りが何を言おうが続けていくことが大事。イベントを組んで、一般の人を呼び込んで、やりたいと思う人、求めている情報を発信したい。また、人材育成の視点で子どもたちへの呼びかけをしていきたい。
- ・人材派遣会社が身元保証人となって避難している人がいるというケースがあるという紹介があった。
- ・ウクライナの避難者を雇っている立場からの情報提供があった（愛知県国際交流協会）。
- ・子どもたちのメンタルケアが大事という話をした。一方、受け入れる側も、多文化に慣れた人であっても、特別対応したくてもできないといったことがある。だれでも慣れていない状況なので、ステークホルダーや支援者側のケアも大事と思う。
- ・チェルノブイリ救援中部では、現地への病院支援、地雷撤去のための探査タブレット、消防士用の器具など募金を集めて支援している。
- ・今後、病気や介護の相談が出てくると思うので、そうした相談に丁寧に対応することが大事になってくる。個人情報に配慮しながら、情報共有をしてスムーズに支援につなげるようにしたい。

グループディスカッション後の全体共有

- ・ 出産を控えている避難者がいて病院での翻訳が大変。高齢の方が病気がちで外出があまりできておらず心配。
- ・ 四日市でやっている日本語教室はオンラインなのでどこからでも参加可能。三重YMCA「にほんごカフェ」
<https://www.mie-ymca.org/nihongocafe/>
- ・ 神奈川で作っている多言語医療問診票が参考になるのではないかと。参照URL : <https://kifjp.org/medical/>
多言語医療問診票（ロシア語あり）真ん中の段の上から3つめの「Акушерство и гинекология」が「産婦人科」
- ・ 避難者がダンスが好きな方がいらっしゃり、至学館大学の情報をつなぐといいという話をした。
- ・ ウクライナ本国のオリンピック選手団とコンタクトした際に、支援を受けるビジネスと感じられたのではないかとという経験があった。ウクライナの方々は心が殺伐とされている中で「援助をされるビジネス」のように感じておられるのではないかとという場面があった。支援者として考える必要がある。
- ・ 避難者の方の一人が、母国ではサラリーが高かったが、日本で現在最低賃金のため、自分の技術を生かした仕事に就きたいフラストレーションを抱えているという話があった。
- ・ 支援の到達点はどこにあるか？
- ・ 母国の学習方法は日本と違うので、国に帰ることを考えている方は、母国の学習を継続するための方法がある。
ウクライナ語の算数の授業サイト参照URL : <https://www.math-suport-ukraine.jp/elementary-school/>
- ・ 受け入れ家族と避難者の思いの違いがある（母国と日本の教育方法の違いなど）。
- ・ 東日本大震災で三重に避難された方が、現在、ハンガリーに住んでいて、ウクライナからの避難者を支援している。
参照 : ウクライナ難民支援プロジェクト <https://ukr-rsp.jimdofree.com/>